

鈴木昭男・宮北裕美「写物静生」



パートナーシップ・プログラム

鈴木昭男と宮北裕美とともに、アーティストとしてかつて縁を結んだ愛知の三都市を再訪する東海道中。

チャンスオペレーション

偶然を好機に変ずる彼らの力が三つの街の三つの企画をつなぎ、「写物静生」の心をたずさえての音とダンスの道ゆきがかないました。

一宮会場 | mh PROJECT_ノコギリニ (愛知県一宮市竜屋4-11-3)

毛織工場跡地で見つけた産物や、場の特性をモチーフに、鈴木は「点音」のほか、新作「シミュラクラちゃん」、宮北は新たに絵画作品を発表します。会期中には2人によるパフォーマンスとアーティストトークを開催します。(入場無料)

展覧会 2025年9月19日(金) - 11月16日(日) 10:00-18:00

パフォーマンス 2025年10月13日(月・祝) 13:00開演 / アーティストトーク 14:00-

主催 | mh PROJECT_ノコギリニ

問合 | mh PROJECT_ノコギリニ mhprojectnyc@gmail.com 助成 | 公益財団法人あいちFG教育文化財団 協力 | のこぎりニ、平松毛織株式会社



豊橋会場 | 豊橋市美術博物館 (愛知県豊橋市今橋町3-1)

閉館後の美術博物館、国島征二「光の庭」で、日没にあわせて行われる一夜限りのパフォーマンス公演。

公演前には、鈴木・宮北、両アーティストを追ったドキュメンタリー映画を無料上映します。

パフォーマンス 2025年10月11日(土) 18:00開演(17:30開場)

Peatix



(料金: 一般3,500円、高校生以下無料) ※チケットは、みずのうえ文化センターへメールで予約・現地支払い、もしくはPeatixにて事前購入ください。

映画『ソラネ 幸福の帽子をかぶって生まれてきた子』 監督 | 宮岡秀行 出演 | 鈴木昭男、宮北裕美 製作 | LE PETIT NOMADE
(入場無料 / 予約不要) 10月11日(土) 13:00開場 第一部 13:30(56分) / 第二部 14:45(106分) 会場 | 豊橋市美術博物館1F講義室

主催 | みずのうえ文化センター 共催 | 豊橋市教育委員会

問合 | みずのうえ文化センター(愛知県豊橋市駅前大通3丁目118番地先 大豊ビルB-2棟) yukihiguchi@aozora-ltd.com 070-8557-5610

大府会場 | 大倉公園 休憩棟中庭 (愛知県大府市桃山町5丁目74)

アートオブリスト2025招聘作家であるワタナベエイジにより、かつて鈴木昭男が手がけた小屋「もんどり庵」がオマージュ復刻。

2021招聘作家の鈴木、同じくダンス参加の宮北をふたたび大府に迎え、小屋を起点にしたパフォーマンス「もんどり庵・WANA-Show」が行われます。

パフォーマンス 2025年11月15日(土) 14:00開演

(入場無料 / 事前申込制) ※10月10日(金)から電話、HP記載の申込フォームまたは直接、大府市役所3階文化交流課窓口にてお申込ください。

アートオブリスト2025展覧会情報

ワタナベエイジ展「Morning Monsters/W Eiji」

会期 | 2025年11月1日(土) - 12月7日(日) 10:00 - 16:00 月〜水休館 ※但し11月3日(月・祝)、24日(月・振休)、25日(火・県民の日学校ホリデー)は開館

会場 | 大倉公園休憩棟、管理棟、中庭など

主催 | アートオブリスト実行委員会、大府市

問合 | アートオブリスト実行委員会事務局(大府市役所文化交流課) 0562-45-6266



鈴木 昭男

Akio SUZUKI



1963年名古屋駅でおこなった《階段に物を投げる》以来、自然界を相手に「なげかけ」と「たどり」を繰り返す「自修イベント」により、「聴く」ことを探求。1970年代にはエコー音器《アナラボス》などの創作楽器で演奏活動を始める。1988年、子午線上の京都府京丹後市網野町にて、一日自然の音に耳を澄ます《日向ぼっこの空間》を遂行。1996年にベルリンにおけるゾナムビエンテ・フェスティバルで街のエコーポイントを探る「点音」プロジェクトを開始。東京都現代美術館、ドクメンタ8(ドイツ)、大英博物館(イギリス)など、世界各地の美術展や音楽祭での展示や演奏多数。

<https://www.akiosuzuki.com>

Photo: Courtesy of Beethoven Foundation for Art and Culture Bonn / © Meike Boeschmeyer

宮北 裕美

Hiroimi MIYAKITA



アメリカ イリノイ大学芸術学部ダンス科卒業。舞台芸術の出演や振付を経て「立つ、歩く、座る」と言ったシンプルな動作、身の回りのモノや現象にダンスを見出し、即興パフォーマンスや視覚芸術の可能性を探る。2012年、京都府北部の丹後半島に拠点を移し、浜で採集した自然の石を打つダンス「Nutu(ヌトゥ)」を創始、国内外で上演。近年は公共の場や自然環境などで様々なパフォーマンスを手がけるほか、ダンサーとして活動してきた固有の時間感覚や空間感覚を美術表現へと持ち込み、3331 アーツ千代田(東京)、Kunsthaus Dresden(ドイツ)、鳥取県立博物館(鳥取)などで発表している。

<https://miyakitahiroimi.com>